

平成22年度 行財政再生シート

NO.	6-2
-----	-----

項目名	陶業・陶芸関係施設	事業名	陶芸研究所管理運営事業
担当部	環境経済部	担当課等	商工観光課

この事業に係る費用を市民一人あたりに換算すると **488** 円 です。

※事業費（平成22年度予算額）を人口5万5千人で除した額

1. 事業の目的・概要等

(1) 事業の目的	陶芸の振興				
(2) 事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和36年10月竣工。(株)I N A X 創業者、伊奈長三郎氏が寄附。 ・ 本館：鉄筋コンクリート造2階、延べ510㎡。敷地は神社用地。 ・ 常滑焼の代表作品の展示、古常滑の復元、現代陶芸作品の研究制作 ・ 陶芸家を志す若者の研修制度（5人、期間1年、無料） 				
(3) 実施・運営方法	○	1. 市が直接実施・運営			
		2. 外部へ委託または指定管理	委託先等		
		3. 団体等への補助金により実施	実施主体		
		4. その他（ ）			
(4) 実施期間など	開始年度	昭和36年度	終了予定年度	予定なし	-
(5) 根拠法令など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常滑市立陶芸研究所の設置及び管理に関する条例 ・ 常滑市立陶芸研究所運営基金の設置及び管理に関する条例 				
(6) 近隣市町・類似団体等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瀬戸市新世紀工芸館(陶芸6人、ガラス6人、研修期間2年、有料) ・ 多治見市陶磁器意匠研究所(20人、研修期間2年、有料) ・ 土岐市陶磁器試験場セラテクノ土岐(地元数名、研修期間1年、無料) 				

2. 事業費の推移

(千円)

		H19決算額	H20決算額	H21決算額	H22予算額	
支出	事業費	10,877	10,774	10,085	10,650	
	人件費※	正規	3.0	3.0	3.0	2.0
		再任	24,000	23,400	20,700	13,800
	臨時	再任	0	2,800	2,600	2,400
		臨時	2.0	0	0	0
	支出計	36,877	36,974	33,385	26,850	
財源	国・県支出金					
	地方債					
	その他()	31,603	32,413	31,571	26,850	
	一般財源	5,274	4,561	1,814	0	
市民1人あたり(円)★		670	672	607	488	
投資事業費	全体事業費		~H22未見込	H23以降	進捗率	
	うち一般財源		うち一般財源	うち一般財源	(H22未見込)	

※人件費の算出単価 ・ 正規職員 : H19/8,000千円、H20/7,800千円、H21/6,900千円、H22/6,900千円

・ 再任用職員 : H19/2,900千円、H20/2,800千円、H21/2,600千円、H22/2,400千円

・ 臨時職員 : H19~H22/1,000千円

★支出計を人口55,000人で除した額

3. 事業実績・計画と成果等

	H19実績	H20実績	H21実績	H22計画
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数6,359人 生産物売払収入1,328千円 職員2名(技師)による研究制作 研修生5名(外部講師等による陶芸指導) 常滑焼まつり「研修生作品を販売」 研修生修了制作展 	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数7,441人 生産物売払収入2,138千円 職員2名(技師)による研究制作 研修生3名(外部講師等による陶芸指導) ギャラリーセラ「常石窯展」 常滑焼まつり「研修生作品を販売」 陶研「文化祭協賛・古常滑にふれてみよう」 県陶磁資料館「陶磁フェスティバル」 研修生修了制作展 	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数10,503人 生産物売払収入1,296千円 職員2名(技師)による研究制作 研修生5名(外部講師等による陶芸指導) 静岡県富士宮市「まちなかアートギャラリー」 常滑焼まつり「研修生作品を販売」 研修生修了制作展 	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数11,000人(見込) 生産物売払収入1,200千円(見込) 職員1名(技師)による研究制作 研修生4名(外部講師等による陶芸指導) 陶研と資料館で「常滑作家協会展」 静岡県富士宮市「まちなかアートギャラリー」 ギャラリーセラ「常石窯展」 常滑焼まつり「研修生作品を販売」 陶と灯の日事業で企画展(予定) 研修生修了制作展
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> 古常滑(大甕、壺)を来館者に説明。常滑焼の特長である自然釉の歴史や魅力を紹介。 技師がアトリエで研究制作した自然釉の作品を展示、販売。 毎年、新規に全国から研修生を受け入れ、基礎から陶芸の技術指導を実施。修了後は、市内の製陶会社や陶芸教室へ勤務。人材育成を展開。 			

4. 事業の必要性

必要性	チェック数	法定等の実施義務がある	緊急度が高い	類似(代替)事業が存在しない
	3	実施目的が未達成である	政策・施策の中で優先度が高い	受益者が多く市民ニーズが高い
		市以外では実施不可能である	継続しなければ効果が表れない	市長の公約に掲げている
	廃止・凍結・休止・先送りした場合の影響	<ul style="list-style-type: none"> 昭和36年当時、初代市長でもある故伊奈長三郎氏は、陶芸家育成のための施設として寄附。 常滑焼千年の歴史を継承していく貴重な公的施設として、その役割は引き続き大きいと考える。 		
想定される代替事業		なし	-	
	○	市既存事業の活用	市(担当課)	商工観光課
			既存の事業	陶業試作訓練所管理運営事業
		民間事業の活用	想定事業主体	
代替事業				

5. 事業の自己評価(今後の方向性・課題など)

<ul style="list-style-type: none"> 本施設は、故伊奈長三郎氏の寄付(運営基金)で事業を運営。本年度から職員1名減員し、3名体制へ省力化。 陶業試作訓練所との機能統合や隣接する民俗資料館との機能分担を積極的に進め、効率的・効果的な事業運営を図りたい。 開所から50年を迎え、卒業生も多い。また、本館設計者が著名な建築家(堀口捨己氏)であり、建物の価値も含め施設全体の魅力づくりにも努めたい。 こうした環境の下、研修制度の見直しや来館者の増加に努めていきたい。
